

令和5年度 第1期 論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

- 1 甲は、土建業A組を営んでおり、VはA組の従業員である。Vは、令和4年4月1日午後8時頃、A組飯場において、雇用契約期間中であるにもかかわらず、甲に対してA組を辞めたいなどと何度も述べた。甲が、Vの態度に立腹し、洗面器及び革バンドでVの頭部を5回殴ったところ、Vは転倒して後頭部をA組飯場のコンクリート床に打ち付けて意識を消失させた。甲は、同日午後9時30分頃、意識消失したままのVを自動車に乗せてA組飯場を出発し、同日午後10時40分頃、B港に到着すると、Vを自動車から降ろして、同港から立ち去った。
- 2 Vは、同月2日午前6時40分頃、前記B港において、うつ伏せ状態で死体となって発見された。Vの死体を解剖した結果、Vは、甲によって港に運ばれた後、死亡に至る前に、第三者により、その頭頂部を角材により数回殴られており、当該暴行はVの死亡を幾分か早めるものであることが判明した。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

